

ワインバーグ「がんの生物学」第1刷(2008年11月15日発行)

正誤表

(2012年3月17日現在)

誤記と正記の差異に下線をしてあります。発音のストレス(アクセント)は本書ではゴチックになっていますが、見落とししやすいので本表ではゴチックに加え下線をしてあります。

頁		誤記	正記
v	献辞 1-2 行	私の意識がすべて <u>て</u> この本に	私の意識がすべてこの本に
xv	1 行	五十順に	五十音順に
4	訳注	顕性, <u>不</u> 顕性	顕性, 潜性
27	図 2.2 説明	引用文献 A, F. Nimmerjahn	(著者に照会中)
35	図 2.9 *5	神経芽細胞腫	神経芽腫
37	*2	英語読みはポリプ	英語読みは <u>ポ</u> リプ
42	図 2.19(A) 図中右	<u>多</u> クローン性 Ig (M 突起)	<u>単</u> クローン性 Ig (M 突起)
48	*3	形容詞は <u>mutagenecity</u>	形容詞は <u>mutagenic</u>
58	4 段目 7 行	口蹄 <u>病</u>	口蹄 <u>疫</u>
66	1 段目 1 行	(サル <small>の</small> 細胞に及 <u>ば</u> ず)	(サル <small>の</small> 細胞に及 <u>ぼ</u> す)
67	サイドバー 3.2 右 19 行	進行性多病巣性白質脳症	進行性多巣性白質脳症
87	ページ見出し	概念と見通し	概要と見通し
96	図 4.2 左	化学薬品で形質転換したマウス	化学薬品で形質転換したマウス <u>線維芽細胞</u>
106	*	<u>グ</u> ライシン	<u>グ</u> ライシン
106	表 4.2 左	瘰 甲状腺 (乳頭性) 甲状腺 (濾胞性) 結腸直腸 Seminoma 脊髄形成異常症 肺 肝 Bladder 腎	瘰 <u>が</u> ん 甲状腺 <u>が</u> ん (乳頭性) 甲状腺 <u>が</u> ん (濾胞性) 結腸直腸 <u>が</u> ん <u>精</u> 上皮腫 <u>骨</u> 髄異形成症候群 肺 <u>が</u> ん 肝 <u>が</u> ん <u>膀</u> 胱 <u>が</u> ん 腎 <u>が</u> ん
	表 4.2 右	60 (H, K, N) 55 (H, K, N)	60 (H, K, <u>N</u> ) 55 (H, K, <u>N</u> )
108	表 4.3 右 7 行	(N-ras の行) 転写因子	<u>低</u> 分子量 G タンパク
117	設問 6	くまなく教 <u>え</u> あげる	くまなく <u>数</u> えあげる
126	図 5.7 説明下から 12 行	スレオニンキ・ <u>ナ</u> ーゼ	スレオニン <u>キ</u> ・ <u>ナ</u> ーゼ

127	*	英国ではリ <b>ガ</b> ンド	英国では <b>リ</b> ガンド
130	図 5. 11	チロシン <b>チ</b> ナーゼ	チロシン <b>キ</b> ナーゼ
139	2 段目 1 行	EGF や FGF 受容体	EGF <u>受容体</u> や FGF 受容体
140	2 段目 3 行	EGF や PDGF 受容体	EGF <u>受容体</u> や PDGF 受容体
141	図 5. 18 (A)	エクソン 17 肥満細胞症	エクソン 17 <u>:</u> 肥満細胞症
	(B)	N 末葉ローブ	N 末葉
	(C)	C 末葉ローブ	C 末葉
		N' <u>  </u>	N
		C' <u>  </u>	C
147	*2	米国では <b>フ</b> ァイブロネクチン	米国では <b>フ</b> ァイブロ <b>ネ</b> クチン
153	図 5. 31	N' <u>  </u>	N
		C' <u>  </u>	C
158	設問 5	ヘテロ・ <u>二</u> 量体 (原文)	ヘテロ・ <u>三</u> 量体 (著者に連絡済)
168	*	英語読みはフォス <b>フ</b> ァテイス	英語読みは <b>フォ</b> スファテイス
176	3 段目 7 行	「産物 <u>を</u> して同定された」	「産物 <u>と</u> して同定された」
178	*	<u>ドイツ語</u> 読みにしてインターリユ ーキンともいう	<u>英語</u> 読みにしてインターリユーキン ともいう
179	2 段目 2 行	「PIP <sub>3</sub> に統合する細胞」	「PIP <sub>3</sub> に結合する細胞」
184	*1	RO と略す.	ROS と略す.
185	*1	RaG12V を指す.	RaG12V を指す.
	*1	英語読みは <b>ジェ</b> イナス・カイネイス	英語読みは <b>ジェ</b> イナス・ <b>カ</b> イネイス
187	*	フォーカルアド <b>ヒ</b> ージョン	<b>フ</b> ォーカルアド <b>ヒ</b> ージョン
189	*1	ウイントと読む	<b>ウ</b> イントと読む
191	*	ダイアシルグ <b>ラ</b> イセロール	ダイアシルグ <b>リ</b> セロール
194	図 6. 29 (B)	Delta または…Notch リガンド	Notch リガンド Delta または…
	(D)	「I 型受容体」の指示線	右の濃緑色に連結
203	4 段目 5 行	浮かび上がってる	浮かび上がって <u>く</u> る
206	7 段目 3 行	Notch	Notch
239	5 段目 1 行	APC	APC
240	図 7. 25 (B)	N' <u>  </u>	N
		C' <u>  </u>	C
245	図 7. 29 (B)	N' <u>  </u>	N
		C' <u>  </u>	C
250	サイドバー7. 10 訳注*2	モ <b>ゼ</b> イセック	モ <b>ゼ</b> イック
256	1 段目 3 行	時間経過を <b>教</b> えるため	時間経過を <b>数</b> えるため
	1 段目 5 行	経過時間を <b>教</b> える	経過時間を <b>数</b> える
289	サイドバー8. 6 右 6 行	小さな <b>断</b> 片化する	小さ <u>く</u> 断片化する
	3 段 2 行	p15 <sup>INK5B</sup>	p15 <sup>INK4B</sup>

291	図 8.31 説明 8&19 行	p15 <sup>INK4A</sup>	p15 <sup>INK4B</sup>
309	図 9.2 説明 10 行	物理的 <u>が</u> 会合する	物理的 <u>に</u> 会合する
321	*2	<u>cdkn2a</u>	<u>Cdkn2a</u>
324	図 9.16 説明 7&8 行	(E2F, <u>緑</u> )…( <u>赤</u> )	(E2F, <u>赤</u> )…( <u>緑</u> )
327	表 9.2 第 2 列	<u>p53API</u>	<u>p53API</u>
335	図 9.22 (A)	卵をマウス初期胚(胚盤 blastocysts)に注入 とその下の図 (初期胚の図 2 点)	受精卵を偽妊娠代理母マウス卵管に注入 ↓ 着床・出産 ↓
335	図 9.22 (A)	…配偶子を含むすべての細胞に導入遺伝子 を…	…配偶子に導入遺伝子を…
	脚注追加	*図 9.22 (A) は著者に確認して訂正	
338	2 段目 5 行	コピー奪われた	コピー <u>を</u> 奪われた
339	図 9.27 説明右 6 行	および Bad <u>タンパク</u> が	および Bak <u>タンパク</u> が
348	表 9.5 脚注 d	脱リン <u>発酵</u> 素	脱リン <u>酸</u> 酵素
365	3 段目 4 行	変株細胞 <u>は</u> variants 抗腫瘍	変株細胞 variants <u>は</u> 抗腫瘍
374	図 10.19	タ <u>ラン</u> キラーゼ 1/2	タンキラーゼ 1/2
386	2 段目 4 行	postembryonic	postembryonic
409	図 11.9 と 11.10	初期→中期 <u>腺腫</u> →後期	初期 <u>腺腫</u> →中期 <u>腺腫</u> →後期 <u>腺腫</u>
411	図 11.19 (B) キー	2N Ki <sup>*</sup> /二倍体	2N Ki <sup>±</sup> /二倍体
419	2 段目 6 行	一過性増幅細胞	一時的増幅細胞
423	図 11.21 横軸	染色体数増加	染色体番号増加
426	図 11.22 説明 5 行	<u>すべてではなく</u> 散在する	散在する <u>一部の</u>
	図 11.22 (B)	最初の診断	<u>双生児の最初の患者の</u> 診断
		2 回目の診断	2 番目の患者の診断
428	表 11.1 最上部 1 行	「ras 様 <u>ras-like</u> 」 <sup>a</sup>	「ras 様」 <sup>a</sup>
		「myc 様 <u>myc-like</u> 」 <sup>a</sup>	「myc 様」 <sup>a</sup>
	表 11.1 脚注 1 行	「ras 様 <u>ras-like</u> 」および「myc 様 <u>myc-like</u> 」	「ras 様」および「myc 様」
431	図 11.24 (A) 囲み 4 段目	…生殖細胞を含むすべての細胞が…	…は、配偶子に…
	脚注追加	*図 11.24 (A) は著者に確認して訂正	
444	1 段目 3 行	(図 11.36, 右のパネル)	(図 11.35B, 右のパネル)
452	表 11.3 左 18 行	Tuberculosis bacillus	「結核菌」の右に移動
457	1 段目 3 行	したがって	例えば
467	図 12.2 (C) 出典	C. S. Potter	C. S. Potten
	*2	複数形は <u>vill</u>	複数形は <u>villi</u>
470	1 段目 1 行	運命 <u>決定</u> された	運命 <u>づけ</u> られた
479	3 段目 4-5 行	<u>巻き戻</u> されて	<u>ほどか</u> れて
482	サイドバー12.3 下 7-5 行	これらの酸化物は…作用する.	これらの酸化物はニトロ化, 酸化, 脱アミノ化, ハロゲン化などの化学

反応を介して修飾された塩基を産生することがあり、近隣の細胞のゲノムに対して変異原として作用する。

482	サイドバー12.3, 1行	組織の慢性炎症では、	組織の慢性炎症は、
483	サイドバー12.4 左4行	大部分は除去さて適正な	大部分は除去されて適正な
497	下から6行	このタイプの <u>ENR</u> は	このタイプの <u>NER</u> は
497	最下段下1行	<u>傷害</u> されて	<u>障害</u> されて
499	ページ見出し	DNA 修復 <u>遺</u> 伝的欠損は…	DNA 修復 <u>の</u> 遺伝的欠損は…
500	2段目6行-10行	…と呼ばれる誤りがちな… と考えられている。) <u>]</u>	…と呼ばれる) <u>]</u> 誤りがちな… と考えられている。
501	ページ見出し	DNA 修復 <u>遺</u> 伝的欠損は…	DNA 修復 <u>の</u> 遺伝的欠損は…
509	図12.33 説明3行	姉妹染色体	姉妹染色 <u>分</u> 体
511	2段目4行	断裂—融合— <u>断裂</u> (BFB)	断裂—融合— <u>架橋</u> (BFB)
	3段目5行	〃	〃
514	1段目4行	〃	〃
	3段目3行	過剰数の <u>染色</u> 体の出現を	過剰数の <u>中心</u> 体の出現を
516	1段目1行	姉妹染色体	姉妹染色 <u>分</u> 体
	5段目本文1行	<u>350</u> 億年前	<u>35</u> 億年前
518	最下段2行	すなわち、	(3行へ移動)
	3行	できた p53 陰性の	できた。すなわち、p53 陰性の
519	2段目4行	断裂—融合— <u>断裂</u> (BFB)	断裂—融合— <u>架橋</u> (BFB)
530	説明文右出典 E	Cancer 95:1387-1395, <u>2003</u> より	Cancer 95:1387-1395, <u>2002</u> より
531	4段目3-4行	<u>形質転換</u> 増殖因子	<u>腫瘍細胞</u> 増殖因子
539	図13.8 右下	移植した <u>PC-3M</u> 細胞株	移植した <u>Co1o205</u> 細胞株
540	図13.10 説明下5行	これら <u>3つ</u> のフローチャート	これらのフローチャート
553	2段目4行	よって支え <u>さ</u> れている	よって支え <u>ら</u> れている
563	図13.34 図題	図13. <u>34</u>	図13. <u>35</u>
564	図13.37 説明1行	Rip <u>t</u> -Tag 遺伝子	Rip-Tag 遺伝子
565	サイドバー13.7 上9行	マウス <u>を</u> 交配させる	マウス <u>と</u> 交配させる
568	図13.40 説明右下 *	差し替え	上皮内がんや非浸潤性がんともいう。
570	2段目5行	腫瘍 <u>随</u> 伴血管	腫瘍 <u>関</u> 連血管
570	2段目6行	<u>ECPs</u>	<u>EPCs</u>
585	問題5	腫瘍 <u>随</u> 伴血管	腫瘍 <u>関</u> 連血管
591	図14.4 図中文字	多様な器官の微小血管での <u>繫</u> 留	多様な器官の微小血管での <u>繫</u> 留
592	図14.5 説明2行	原発腫瘍から離れて()右方へ	原発腫瘍()から離れて右方へ
	図14.5 説明3行	1個ずつ <u>縦</u> 列をなして	1個ずつ <u>列</u> をなして
595	8行目	10 <sup>6</sup> 個の周囲細胞	10 <sup>6</sup> 個に及ぶ周囲の <u>間</u> 葉細胞

596	3 段 2 行	細胞内で <u>長期的</u> 存続しても	細胞内 <u>長期間</u> 存続しても
598	サイドバー14.4 右 11, 13 行	図 14. 11B	図 14. 11C
601	2 段 12 行	活性化し <u>さへ</u>	活性化し <u>さえ</u>
603	ページ見出し	EMT と E <u>ガ</u> ヘリン発現の消失	EMT と E <u>カ</u> ドヘリン発現の消失
603	図 14. 15 説明下 5 行	sm-actin, $\alpha$ 平滑筋アクチン.	削除
605	図 14. 16 説明文最後	可能にする.	可能にする <u>からだ</u> .
605	3 段目 9 行	異種移植 xenografted	異種移植 xenograft
606	1 段目 1 行	免疫 <u>無防備</u> の	免疫 <u>不全</u> の
606	図 14. 17 説明左 4 行	掛かる <u>わけ</u>	とり <u>わけ</u>
609	3 段目最後	<u>護</u> る作用	<u>護</u> る作用
612	図 14. 22 右 11 行	J. W. Pollard	J. W. Pollard
613	図 14. 23 説明 3 行	細胞外基質を浸潤させる	細胞外基質を <u>通</u> って浸潤させる
616	表 14. 3 右列 5 行	浸潤性 <u>線</u> 管がん	浸潤性 <u>腺</u> 管がん
620	図 14. 29 説明右 3 行	<u>胆</u> がんマウス	<u>胆</u> がんマウス
621	*	メイトリックス・メ <u>タ</u> ロ <u>プ</u> ロ <u>テ</u> イネイス	メイトリックス・メ <u>タ</u> ロ <u>プ</u> ロ <u>テ</u> イネイス
625	3 段目 3 行	lamellipodia という <u>。</u>	lamellipodia という <u>。</u>
632	3 段目 11 行	組織 <u>科</u> 学的	組織学的
632	*2	任務に <u>集</u> 加する	任務に <u>参</u> 加する
633	図 14. 41 説明右 5 行	見張りリンパ節	見張り役リンパ節
636	3 段目 5-6 行	がん細胞が ( ) 門脈を介して腸管から排出され,	がん細胞が腸管から ( ) 門脈を介して排出され,
641	下 3 行	それらの多く <u>す</u> では <u>な</u> じみの	それらの多くは <u>既</u> になじみの
641	図 14. 48 説明下 8 行	(左上方と中 <u>断</u> )	(左上方と中 <u>段</u> )
646	4 段目 5 行	浸潤し <u>移</u> 転する	浸潤し <u>転</u> 移する
650	5 段目 2 行	問題をしている.	問題となっている.
662	図 15. 8(A) 図題	APC と Th 細胞の間で起きる <u>非</u> 生産的相互作用	APC と Th 細胞の間で起きる生産的相互作用
674	図 15. 18 説明 3 行	RGA1 および RAG2 タンパク	RAG1 および RAG2 タンパク
687	2 段目 3 行	誘発 <u>す</u> ることができる	誘発 <u>す</u> ることができる
694	図 15. 28 説明右 4 行	$\beta_{2m}$ 遺伝子	$\beta_{2m}$ 遺伝子
700	図 15. 32 説明右 7 行	TGF $\beta$ II 受容体	TGF $\beta$ II <u>型</u> 受容体
705	1 段目 4 行	産生 <u>さ</u> れるからである	産生 <u>す</u> るからである
709	2 段目 1 行	その <u>選</u> 択性がゆえに	その <u>選</u> 択性ゆえに
717	2 段目 4 行	腫瘍 <u>随</u> 伴血管	腫瘍 <u>関</u> 連血管
719	1 段目 3-4 行	免疫能が抑制された患者の研究が, <u>免疫監視機構</u> がさまざまなウイルスで引き起こされる腫瘍の出現を妨げる <u>責</u> を担っている, …	免疫能を抑制された患者の研究は, さまざまなウイルスで引き起こされる腫瘍の出現を妨げる <u>役</u> を <u>免疫監視機構</u> が担っている, …

719	2 段目 3-4 行	免疫系の細胞性機能分野によって媒介される。	免疫応答の中でも、細胞性免疫の機能が担っている。
720	1 段目 2 行	それよりさらに不明瞭なままである。	依然としてもっと不明瞭である。
720	7 段目 1 行	腫瘍進展の各段階について、	腫瘍進展の各段階を、
721	2 段目 2 行	そのことが、がんに対する…	だからといって、がんに対する…
721	2 段目 2-3 行	開発するのを妨げるわけでは	開発することが出来ないわけでは
723	これらの問題を…	がん細胞がどのようにして…	1. がん細胞がどのようにして… (以下番号繰上げ)
728	図 16.2 縦軸 2 段目 1 行	人口 10 万人あたりの年齢… 粘膜内 <i>in situ</i> 乳がん	人口 10 万人あたりの年齢… 上皮内 <i>in situ</i> 乳がん
729	4 段目 3 行 4 段目 11 行目	サブタイプとして階層化… B 細胞性リンパ腫	サブタイプとして層別化… B 細胞様リンパ腫
730	図 16.4 説明 A17-18 行	特性	特徴
731	図 16.5(C) 右  図 16.5(D) 横軸	獲得 chr. 3q 獲得/増幅 chr. 9p24 ( <u>m</u> M)	chr. 3q 獲得 chr. 9p24 獲得/増幅 ( <u>μ</u> M)
732	6 段目 5 行	造血系前駆体細胞	造血系前駆細胞
734	図 16.7 説明 7 行	ng/ml) ドキソルビシン	ng/ml) <u>の</u> ドキソルビシン
736	*	CDKN2B ( <i>Cdkn2b</i> )	<i>CDKN2B</i> ( <i>Cdkn2b</i> )
737	1 段目 1 行	サイドバー <u>6.1</u> 参照	サイドバー <u>16.1</u> 参照
737	5 段目 4 行	(空洞 <u>carvities</u> )	(空洞 <u>cavities</u> )
737	5 段目 7 行	(図 16.1)0	(図 16.10)
737	6 段目 5 行	FOS	Fos
738	最下行	不安定化したり	不安定化したり
743	図 16.13 説明 A11 行	シグナル調節される	シグナル <u>で</u> 調節される
750	3 段目 1 行と 8 行	図 16.9 は	図 16.19 は
754	訳注*2	<u>ク</u> オリティ (2カ所)	ク <u>オ</u> リティ (ストレス位置)
756	表 16.2 例最下行 本文一段目 2 行	シクロホスフ <u>ア</u> ミド 表している*1. <u>表</u> 16.2…	シクロホスフ <u>ア</u> ミド 表している*1. <u>表</u> 16.2…
763	図 16.27(A) 図中 たかり文字(下部)	…プロウイルスを回収する <u>が</u> ,	…プロウイルスを回収する <u>か</u> ,
765	図 16.30 説明下 5 行	PCR で増幅して… 場合ように…	または PCR で増幅して… 場合のように…
766	図 16.31(A)	アニリ <u>ニ</u> キナゾリン骨格	アニリ <u>ノ</u> キナゾリン骨格
771	サイドバー16.3/28 行	機能的に <u>重</u> 視している	機能的に <u>重</u> 複している
775	2 段目 1 行	身を <u>護</u> るのに NF…	身を <u>護</u> るのに NF…
777	図 16.39 説明 3-4 行 *2	<i>Veratum californicum</i> 発音はサイク <u>ロ</u> ウピズ	<i>Veratrum californicum</i> 発音は <u>サ</u> イクロプス、複数は

Cyclopes サイクロウピズ

PTCH 遺伝子

一団の広範な培養ヒトがん細胞が、  
…関連して既に本書で触れた

リツキサン

10<sup>5</sup>個に1個と低い…

情報でもさらに支持される。

腫瘍関連血管

neovasculature

層別化することは、研究者と臨床医  
が薬物を…のタイプに適合…

dyskeratosis congenita

先天性角化不全症

glycosylphosphatidylinositol

779 2段目3行

780 2段目2行

786 4段目3行

790 \*2

791 1段目3行

791 2段目2行

792 5段目6行

792 5段目8行

795 5段目1-2行

A:2 DC(2)

A:4 GPI

PTC 遺伝子

一団の広範な、培養ヒトがん細胞が  
…関連して述に本書で触れた

リツキサン

10<sup>5</sup>個に1個と低い…

情報でもさらに指示される。

腫瘍随伴血管

neovasculatue

層別化することは、薬物を…のタイプ  
に研究者と臨床医が適合…

dyskeratosis congenital

先天性角化症

glycosylphosphatidylimositol